

栄鉄鋼商事株式会社 環境経営レポート
Sustainability Report

2023年度

活動期間(2023年10月～2024年9月)

作成日;2024年12月10日

SAKAE STEEL CORPORATION



2023年度 Sustainability Report

Contents

	1. 事業の概要
2P	1-1. 会社プロフィール
3P	1-2. 許認可
4P	1-3. 施設の状況
	2. 環境活動計画
5P	2-1. 環境理念と環境基本方針
6P	2-2. EA21実施体制について
7P	2-3. 環境目標
8P	2-4. エコプロジェクト
9P	2-5. エコプロジェクト実施上の改善・見直し
	3. 2023年度の環境活動実績
10P	3-1. 環境目標の達成状況
11P~13P	3-2. 主要環境指標の推移及び各指標の評価・改善
14P	4. 環境コミュニケーションの状況
	5. 環境上の緊急事態の想定結果及びその対策
15P	5-1. 緊急事態の想定結果及びその対策
16P	5-2. 訓練結果
17P	6. 地域貢献活動
	7. 関連法規
18P	6-1. 関連法規一覧
	6-2. 関連法規の順守に向けた体制
19P	8. 全体の取り組み状況評価と改善項目
20P~21P	コラム～シンプルエコファクトリー「三郷エコロジー」

1. 事業の概要

私たち栄鉄鋼商事(株)は、「物流」「環境」をトータルにマネジメントし、効率的なサービスを提供します。特に環境部門においては産業廃棄物処理業を中心に、地域そして企業のエコ化推進役として、3R活動(リデュース、リユース、リサイクル)を強力にサポートアップしていきます。例えば、資源のリサイクル、分別の徹底化や運送の効率化により、再資源化コストを抑制し、地域企業にとってより容易で適正な産業廃棄物処理サービスを提供することを目指します。

1-1. 会社プロフィール(2024年12月現在)

会社名 栄鉄鋼商事株式会社
代表取締役 江井 弘

対象事業所

・本社 〒121-0816 東京都足立区梅島2-18-5
Tel 03(3887)0750 Fax 03(3887)0558
環境担当者 江井すわ子

・三郷エコロジー 〒341-0055 埼玉県三郷市泉3-8-3
(三郷事業所) Tel 048(949)1304 Fax 048(949)1305
環境担当責任者 センター長 栗田 秀一
環境担当者 栗原 秋江

・番匠免ロジスティックスセンター 埼玉県三郷市番匠免1-323
A棟40坪 B棟60坪

対象事業活動 産業廃棄物収集運搬業(保管積替えを含む)、運送、
産業廃棄物処分業、鉄鋼材の加工販売(有価物 年間実績:3250t)

創業年月日 1970年10月2日
資本金 15,000,000円
決算期 毎年9月末日
売上高 739百万円 第53期
床面積(本社) 58.43㎡
床面積(三郷エコロジー) 1,155㎡

役員・社員 役員・本社 2名
本社社員 3名
三郷エコロジー 15名
主たる得意先 (1)株式会社 オカムラ
(2)砂畑産業 株式会社
(3)日本ロジテム 株式会社

主たる取引銀行 (1)三井住友銀行 千住支店
(2)東日本銀行 西新井支店

1. 事業の概要

1-2. 許認可

(1) 産業廃棄物処分業許可証一覧

所在地: 三郷エコロジー 〒341-0054 埼玉県三郷市泉3-8-3

許可都県	許可年月日 有効期限	許可番号	施設の種類	処理能力	品目
埼玉県	令和3年12月2日 令和8年9月10日	第1120009036号	破砕施設	1.58t/日	廃プラスチック類
				2.11t/日	木くず
			破砕施設	1.16t/日	廃プラスチック類
			圧縮施設	4.48t/日	廃プラスチック類

(2) 産業廃棄物収集運搬業許可証一覧

認可都県	許可年月日 有効期限	許可番号	品目
東京都	令和5年10月29日 令和10年10月28日	第1300009036号	廃油、※廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず※がれき類(※石綿含有産業廃棄物を含む)
埼玉県	令和 6年 1月 4日 令和10年12月23日 (積替・保管を含む)	第1110009036号	(収集運搬) ※廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、※ガラス・コンクリート・陶磁器くず、※がれき類(※石綿含有産業廃棄物を含む) (積替え保管を含む) ※廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
神奈川県	令和 6年6月 4日 令和11年3月10日	第1401009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
千葉県	令和 6年1月12日 令和11年 1月 6日	第1200009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
山梨県	令和 6年7月23日 令和11年7月22日	第01900009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
長野県	令和6年9月11日 令和11年9月10日	第2009009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
静岡県	令和 6年9月25日 令和11年9月24日	第02201009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
茨城県	令和 6年6月11日 令和11年3月29日	第0801009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
福島県	令和4年3月25日 令和9年3月24日	第02201009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず、がれき類
新潟県	令和4年6月6日 令和9年6月5日	第02201009036号	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず 金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
栃木県	令和 6年3月31日 令和11年3月30日	第0900009036号	廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス・コンクリート・陶磁器くず
群馬県	令和5年10月29日 令和10年10月28日	第1000009036号	※廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、※ガラス・コンクリート・陶磁器くず※がれき類(※石綿含有産業廃棄物を含む)

(3) 一般貨物自動車運送事業

許可名	許可番号	有効期限
一般貨物自動車運送事業	関自貨2第3355号	特に無し

1. 事業の概要

1-3. 施設の状況

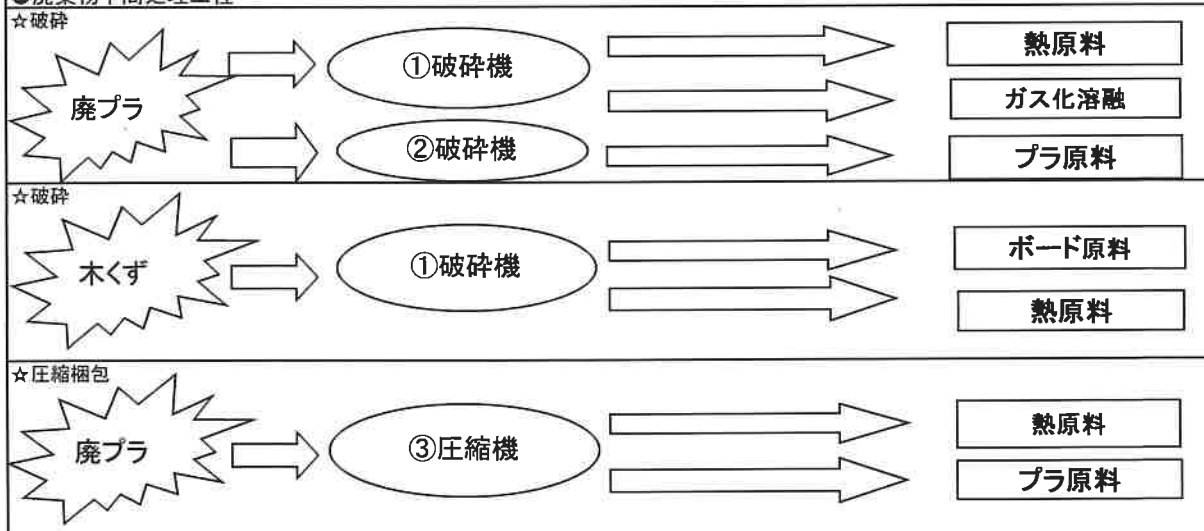
(1) 収集運搬業

●運搬車輛の種類と台数	4t 平ゲート車 1台	4t平ボディ車 3台	4tバッカー車 2台
	4tアームロール車 2台	4tWゲート車 1台	
	2t平ボディ車 2台	2tパワーゲート車 1台	ワゴン車 1台 3tユニック車 1台
●産業廃棄物収集運搬量	収集運搬量 合計 2122957kg		
●積替保管施設(三郷エコロジー)	所在地:埼玉県三郷市泉3-8-3(1155㎡) 積替え保管種類: 廃プラスチック類、木くず、金属くず、ガラス陶磁器・コンクリートくず 積替え保管面積 69.9㎡ 積替え保管保管高さ 1.5m 積替え保管保管上限 13.9㎡		

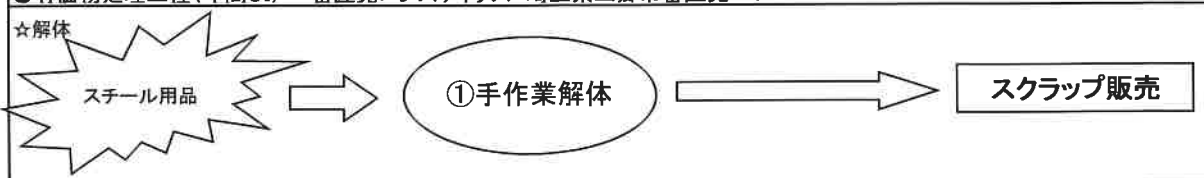
(2) 中間処分業

●処理方式、処理する産業廃棄物の種類、設置場所、設置年月日、処理能力(規模)、構造及び設備の概要等	【三郷エコロジー(三郷事業所)】 所在地:埼玉県三郷市泉3-8-3(1155㎡) ①処理方式: 破碎 ・廃プラスチック類 平成18年9月11日設置 1.58t/日(8時間) ・木くず 平成18年9月11日設置 2.11t/日(8時間) ②処理方式: 破碎 ・廃プラスチック類 平成18年9月11日設置 1.16t/日(8時間) ③処理方式: 圧縮梱包 ・廃プラスチック類 平成18年9月11日設置 4.48t/日(8時間)
	●産業廃棄物中間処理量 中間処理量 合計 1291927kg

●廃棄物中間処理工程



●有価物処理工程(年間3t) 番匠免ロジスティクス 埼玉県三郷市番匠免1-323



2. 環境活動計画

栄鉄鋼商事(株)では、環境産業の一翼を担う者として、次に掲げる環境活動計画に基づき、地域環境に配慮した企業活動を行うものとします。

2-1. 栄鉄鋼商事の環境経営方針

環境理念

循環型社会の一員としての、自覚と認識を持ち、社会に貢献し、責任ある行動をする。

環境基本方針

栄鉄鋼商事株式会社は、地球上の環境や社会が抱える問題にバランスよく取り組み将来にわたって持続可能な開発を目指す「SDGs」に心から賛同し、活動に参加しております。我々の職域である輸送・廃棄処理・保管・鉄加工販売等において「エコアクション21」活動を通じて、社会や環境との共生・調和、地球環境の保全に取組み、継続的な環境負荷の低減を目指しSDGsの精神を実現させます。

1. 環境に関する法律及び協定等を厳守する。
2. 廃棄物の適正処理と地球環境負荷の低減を推進する。
 - (1) 廃棄物の徹底した選別と分離をよびかける。
 - (2) リサイクルを推進し、処分場への減量化に努める。
 - (3) 周辺地域への環境保護に努める。
 - (4) 省エネによる二酸化炭素排出量削減に努める。
 - (5) 貴重な水資源を効率的に活用し使用量の削減に努める。
3. 環境目的・目標を定め、社会事情・事業活動の変化に応じて目的・目標の見直しを行う。
4. 環境教育プログラムを実施し意識と知識とコミュニケーションの向上を図る。

2005年5月28日制定
2022年10月1日改定

栄鉄鋼商事(株)
代表取締役 江井 弘

2. 環境活動計画

2-2. EA21 実施体制について

●全体責任者(社長)

年に1度、総合的な評価を行う。

[主な役割]

- ・経営における課題とチャンスの明確化
- ・理念および環境方針の策定・改定
- ・全体的な見直し・評価
- ・経営資源の提供
- ・環境責任者を任命する

●環境管理責任者

EA21全体のとりまとめ。部門長、担当者に必要な事項の指示を行う。

月例会議では、議事進行を行う。

[主な役割]

- ・エコアクション活動全体の進行管理
- ・エコアクションの企画
- ・部門長、担当者等への指示

●部門長

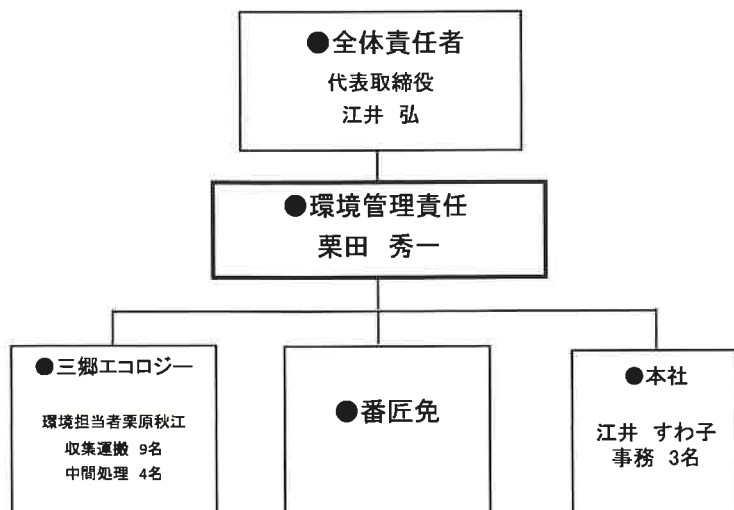
それぞれの部門のエコアクション活動の企画、実施、とりまとめを行う。

各部門データの収集・集計を行う。

[主な役割]

- ・各種データの収集・集計
- ・エコプロジェクトの推進
- ・各部門のエコアクション活動の企画立案
- ・各担当者への決定事項の伝達

エコアクション21運用体制 2022年度より



2. 環境活動計画

2-3.新中期環境経営目標

環境理念および環境基本方針に基づき、環境目標を定め、2023年度から3ヶ年度で、以下の目標を達成すべく、環境活動を全社的に取り組むこととした。2010年度から電力・ガソリンを追加し、原単位での比較が必要な軽油は、燃費での比較を開始した。また事業年度の合わせて対象期間を10月～9月に変更する。

目標	部門	基準値 (2022年度)	目標値			備考
			2023年度	2024年度	2025年度	
二酸化炭素排出量(kg-CO2)を毎年1%削減する	全体	200,794	198,786	196,778	194,770	2022年度の排出量を基準とする(次項も同様)
電力使用量(kWh)を毎年1%削減する	全体	30,401	30,097	29,793	29,489	本社、三郷エコロジーが対象
軽油の燃費(km/t)を毎年1%向上する	全体	5.58	5.64	5.69	5.75	ディーゼル車のみ対象
軽油使用量(ℓ)を毎年1%削減する	全体	68928.00	68,239	67,549	66,860	ディーゼル車のみ対象
ガソリン使用量(ℓ)を毎年1%削減する	全体	2,402	2,378	2,354	2,330	通勤車及び三郷エコロジーのフォークリフトが対象
廃棄物のリサイクル率を86%まで向上させる(収集運搬)	全体	83%	84%	85%	86%	収集運搬、積替保管等弊社を経由する廃棄物等が対象
廃棄物のリサイクル率を100%を維持する(中間処分)	全体	100%	100%	100%	100%	弊社中間処分場を経由する廃棄物等が対象
水使用量を年200m3以下にする	全体	200m ³ 以下	200m ³ 以下	200m ³ 以下	200m ³ 以下	現状程度を維持する

東京電力2022年度調整後排出係数を使用 0.376kg-CO2/kwh

[廃棄物のリサイクル率の定義]

収集・運搬及び中間処分のリサイクル率は、最終処分先とリサイクル先の運搬及び搬出割合にて算出。

2. 環境活動計画

2-4. エコプロジェクト(環境への取組状況)

栄鉄鋼商事(株)では、環境目標を実現するために、以下に掲げる33のエコプロジェクトに取り組み、毎月その進捗状況をモニタリングすることで、環境管理の柱としている。

目標分類	エコプロジェクト	具体的な内容	番号
二酸化炭素排出量削減	1. 不必要な照明は消す	昼食時に室内の2/3を消灯する	1
		PM5:30以降は必要な場所以外は消す	2
		昼食・休憩時間以外の休憩室は消灯する(三郷)	3
	2. 週末は電源OFFにする	省電コンセントで一括電源OFFにする	4
	3. 冷暖房を管理する	暖房は20℃とする	5
		冷房は28℃と定め扇風機を併用する	6
		フィルター掃除を第二・第四金曜日に行う	7
		簾、カーテンを設置する	8
	4. 室内外を緑化する	一坪程度の屋外緑化エリアを設置する	9
		屋外プランター、屋内盆栽を設置する	10
	5. パソコン利用を見直す	常時稼働しているサーバーをなくす(本社)	11
		最終帰宅者が電源オフを確認する	12
	6. エコドライブを実施する	乗車の度、チェックリストに記入する	13
		優良ドライバーを表彰する	14
リサイクル率向上	1. 廃プラを100%リサイクルする	分別体制を構築する	15
		マテリアルリサイクルの処理ルートを開拓する	16
		サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	17
	2. 木屑を100%リサイクルする	分別体制を構築する	18
		サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	19
	3. 金属を100%リサイクルする	鉄、アルミ、ステンレスの分別を徹底する	20
	4. リサイクル全般を推進する	付着付石膏ボードの分離作業の徹底	21
		紙の徹底的な分別を顧客に勧める	22
		がれき類の処理ルートを開拓する	23
一般廃棄物削減	1. 紙を裏面利用する	印刷用トレーに常備裏紙を使用する	24
	2. 封筒を再利用する	社内・社外の書類受渡等に利用する	25
	3. 包装を簡略化する	買い物時に袋を断る	26
	4. ペーパーレス化を進める	電子メール、ネットサーバーを利用する	27
	5. ゴミを分別する	可燃、不燃、紙・段ボール、ビン・缶に分ける	28
		雨水を貯水し植木への散水に使用する	31
	2. 節水する	節水弁を設置し水の使用を制限する	32
		トイレの貯水タンクに水入りペットを設置する	33

2. 環境活動計画

2-5. エコプロジェクト実施上の改善・見直し(次年度の環境活動計画)

A. CO2を削減する

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 不必要な照明等は消す	昼食時に室内の2/3を消灯する	担当がチェックし実施してるので継続
	PM5:30以降は必要な場所以外は消す	効果がでているので継続
	昼食・休憩時間以外の休憩室は消灯する(三郷)	くもりや雨以外は消灯
2. 週末は電源OFFにする	省電コンセントで一括電源OFFにする	購入予定(設置していない箇所)
3. 冷暖房を管理する	暖房は20℃とする	消し忘れの徹底済み
	冷房は28℃と定め扇風機を併用する	消し忘れの徹底済み
	フィルター掃除を第二・第四金曜日に行う	問題点が出ていないのでこのまま継続
	簾、カーテンを設置する	まだ一部しか出来てないので前面に設置
4. 室内外を緑化する	一坪程度の屋外緑化エリアを設置する	済み
	屋外プランター、屋内盆栽を設置する	済み
5. パソコン利用を見直す	常時稼働しているサーバーをなくす(本社)	済み
	最終帰宅者が電源オフを確認する	最終帰宅者が必ず責任を持って消す
6. エコドライブを実施する	乗車の度、チェックリストに記入する(本社)	タコグラフ導入済み
	優良ドライバーを表彰する	エコを取り入れ、乗務員教育を徹底し表彰の方法を検討

B. 廃棄物のリサイクル率を向上する

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 廃プラを100%リサイクルする	分別体制を構築する	5~7種類分別の徹底
	マテリアルリサイクルの処理ルートを開拓する	軟質系、硬質系の分別の徹底
	サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	新規処理場は開拓済み、価格面で検討中
2. 木屑を100%リサイクルする	分別体制を構築する	2種類分別の徹底
	サーマルリサイクルの処理ルートを開拓する	新規処理場の開拓済み
3. 金属を100%リサイクルする	鉄、アルミ、ステンレスの分別を徹底する	社員への細かな教育、特殊分別指導
4. リサイクル全般を推進する	付着物付石膏ボードの分離作業の徹底	分別・分離の徹底
	紙の徹底的な分別を顧客に勧める	サーマルの処分場を開拓済み

C. 事業系一般廃棄物を削減する

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 紙を裏面利用する	印刷用トレーに常備裏紙を使用する	社内文書は必ず裏面利用を継続
2. 封筒を再利用する	社内・社外の書類受渡等に利用する	社外に利用できるよう、作成の仕方に工夫
3. 包装を簡略化する	買い物時に袋を断る	全体への推進済み
4. ペーパーレス化を進める	電子メール、ネットサーバーを利用する	メールアドレス全員に完備済み
5. ゴミを分別する	可燃、不燃、紙・段ボール、ビン・缶に分ける	紙の分別を徹底する
	紙・段ボール、ビン・缶はリサイクルにする	問題点がないので、このまま継続

D. 水使用量削減

エコプロジェクト	具体的な内容	改善・見直し
1. 雨水の利用	雨水を貯水し洗車時に使用する	タイヤの洗浄のみ利用
	雨水を貯水し植木への散水に使用する	利用済み
2. 節水する	節水弁を設置し水の使用を制限する	今後の状況にて検討
	トイレの貯水タンクに水入りペットを設置する	使用毎に500mlの節水効果

3. 2023年度の環境活動実績

2023年10月から2024年9月までの環境活動について、その実績を示す。

3-1. 環境目標の達成状況

2023年度の環境目標達成状況は次の通りである。

目標	基準値 (2022年度)	2023年度 目標値	2023年度 結果	目標比%	評価	
二酸化炭素排出量(kg-CO2)を1%削減する	200794	198,786	216,590	109.0	△	重機使用の解体作業が増えた為
電力使用量(kWh)を1%削減する	30,401	30,097	31,904	106.0	△	休日・夜間作業が増えた事が原因
軽油の燃費(km/ℓ)を1%向上する	5.58	5.64	5.50	97.5	△	アイドリングストップの実施
軽油使用量(ℓ)を1%削減する	68928.00	68,239.00	75279.00	110.3	×	重機の稼働率が上がった為
ガソリン使用量(ℓ)を1%削減する	2,402	2,378	2,436	102.4	△	現調依頼が増加した為
廃棄物のリサイクル率を83%まで向上させる(収集運搬)	83%	84%	88%	104.8	○	作業員が増え分別作業が向上した為
廃棄物のリサイクル率を100%を維持する(中間処分)	100%	100%	100%	100.0	○	中間処理後、全てリサイクル処理
水使用量を年200m3以下にする	200m ³ 以下	200m ³ 以下	239	102.5	△	作業員増員と夜間作業が増えた事が原因

削減
○＝達成
△＝100以上～110以下
×＝110以上

向上
○＝達成
△＝90以上～100以下
×＝89以下

3. 2023年度の環境活動実績

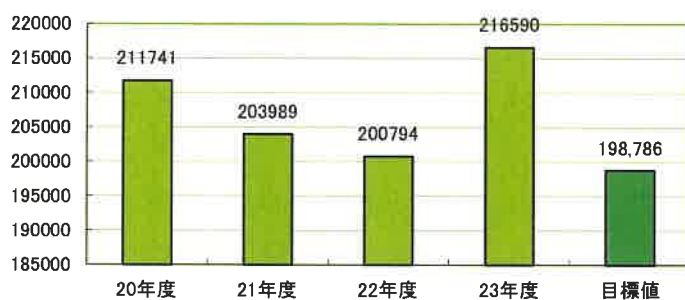
3-2. 主要環境指標の推移及び各指標の評価・改善

仕事量の増加に伴い目標値を上回ってしまった。エコ活動を強化して目標達成に向けて努めていきたい。

(1) 総エネルギー投入量・CO2排出量の評価・改善

重機使用の解体作業が増加し、加えて夜間・休日作業も増加した事が原因。エコドライブ・アイドリングストップの実施で今後もエコ活動に努めていきたい。

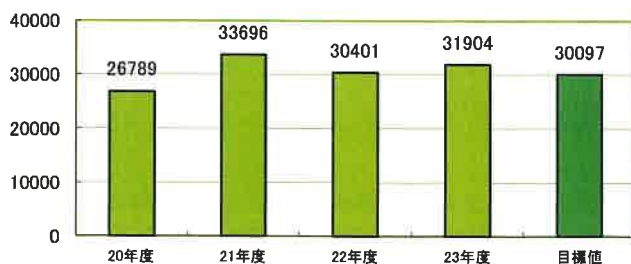
CO2排出量(kg-CO2) 全体



(2) 購入電気量の評価・改善

電気使用量は目標を達成出来なかった。夏の猛暑の影響もあると思うが、節電の努力が出来なかった。個人レベルのエコ活動を実施させ目標達成に取り組みたい。

電力使用量(kWh) 全体

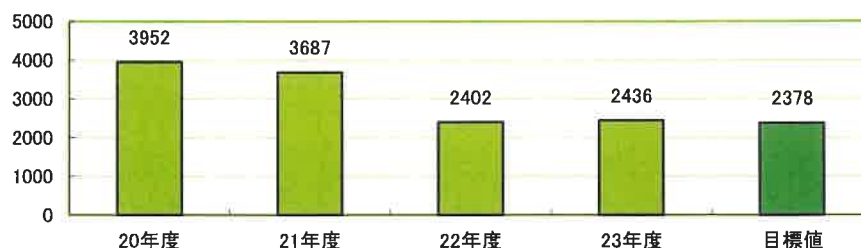


3. 2023年度の環境活動実績

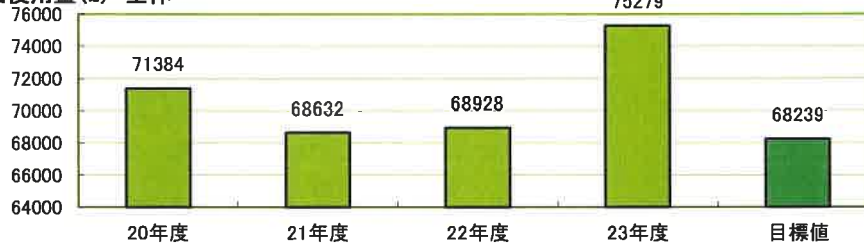
(3) ガソリン使用量・軽油使用量

ガソリン・軽油の使用量は目標を達成出来なかった。社用車での現調依頼や、重機使用の解体作業が増加した事が原因と思われる。軽油の燃費はエコドライブ・アイドリングストップの実施目標値を下回った。

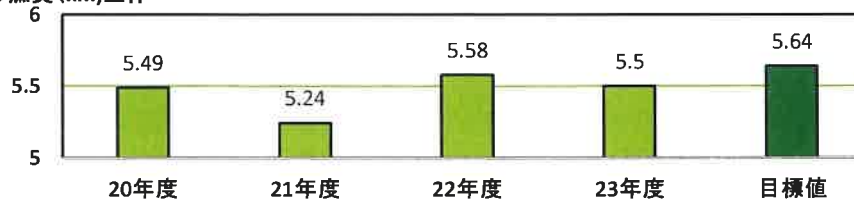
ガソリン使用量(ℓ) 全体



軽油使用量(ℓ) 全体



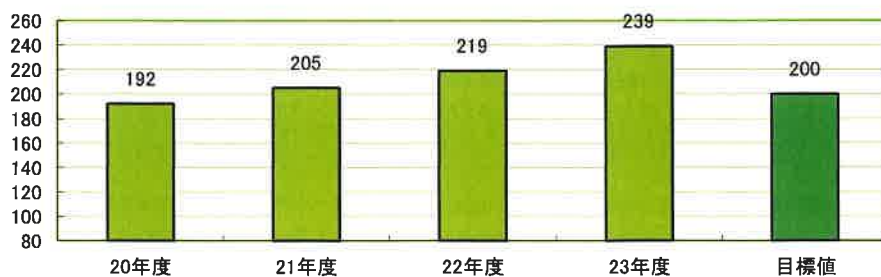
軽油の燃費(km)全体



(4) 水使用量

水使用量は、最終の目標値を達成できなかった。三郷エコロジーの稼働率が上がり作業員の増員と夜間作業の増加、帰社後の荷台洗浄等が増えた事が原因と思われる。今後は個々の節水意識の向上に努めていきたい。

水使用量(m³) 全体



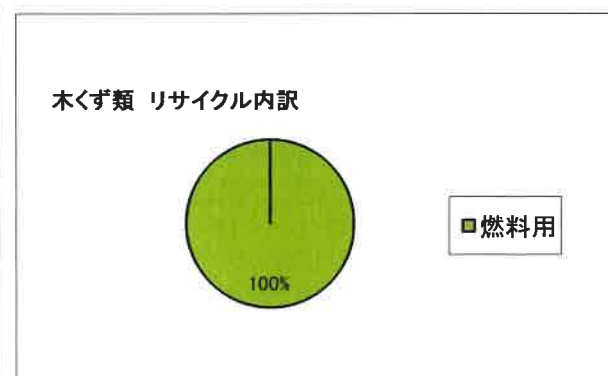
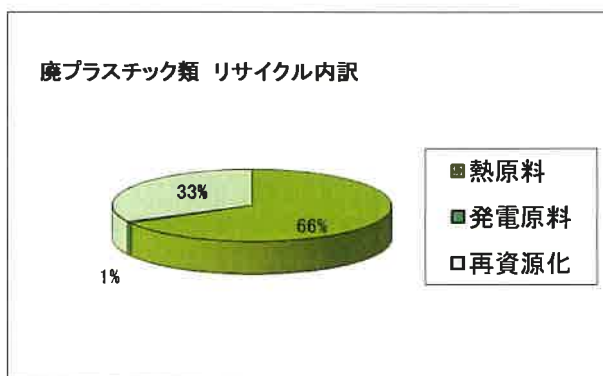
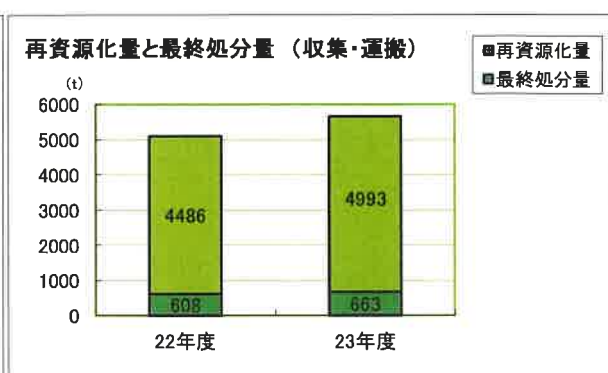
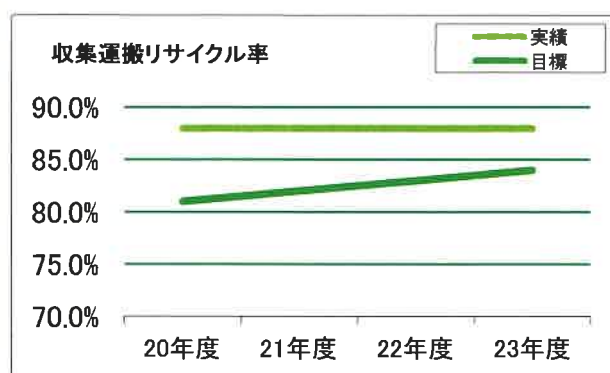
3. 2023年度の環境活動実績

(5) 収集運搬・産廃リサイクル率

収集運搬、産廃リサイクル率は目標達成出来た。建築系廃棄物の分別を強化した結果だと思われる。

中間処分・産廃リサイクル率

中間処分では木くず類は100%リサイクル率、廃プラスチック類は中間処理後サーマルリサイクルとマテリアルリサイクルで100%リサイクルとなっています。



4. 環境コミュニケーションの状況

環境産業の一端を担うものとして、弊社では下記のように環境情報の提供や地域活動を行います。

(1) レポートを年1回発行

エコアクション21認証取得により、一般財団法人持続性推進機構のサイトに弊社レポートが掲載され、多方面からの反響があった。年1回5月頃に4月～3月の1年間の環境活動実績をレポートをまとめ、本社、三郷エコロジー、インターネット等で公表する。

(2) クレーム、相談等の窓口の設置

万が一クレームや問い合わせ相談があった場合に備え、担当者を決め、相談・クレーム等の内容とその対処や回答などを記録した問い合わせ台帳を準備した。なお、2024年9月現在、クレームは発生していない。

(3) 地域活動

本社、三郷エコロジー周辺の清掃活動に加え、多様な環境維持保護活動に取り組む。本社、三郷とも土地の一部に、緑化スペースを設け、街に潤いを提供している。また周辺には、ビオトープを設け、小規模であっても昆虫や鳥類などの生息するスペースを準備していくこととする。また、足立区役所が所有する区画整理事業用地を活用した「六町エコプチテラス」を運営する足立グリーンプロジェクトに対し、継続的な支援を行っていく。

(参照: <http://www.greenproject.net/modules/news/>)

(4) 産業廃棄物優良事業者の認定に向けた取り組み

弊社では、「産業廃棄物処理事業者の優良性評価」における優良事業者の認定を目指し、(財)産業廃棄物処理事業財団による産廃情報ネットにおいて、遵法性、情報公開性、環境保全への取り組みに関して、情報公開を行う。

(参照: <http://www2.sanpainet.or.jp/zyohou/>) 実施にむけて準備を進めている

5. 環境上の緊急事態の想定結果及びその対策

5-1. 緊急事態の想定結果及びその対策

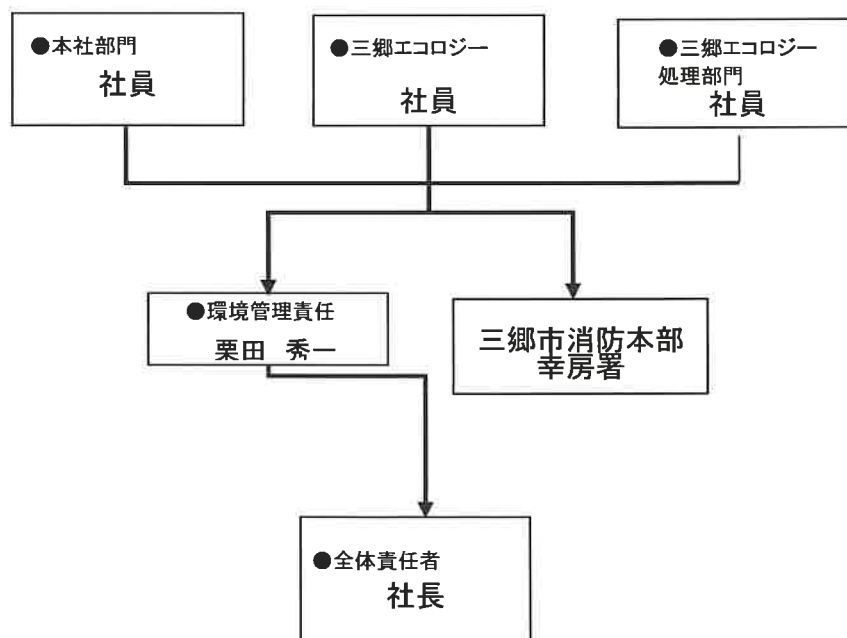
緊急事態の想定内容

- ・ 天災時による落下物等による怪我
- ・ 木くずの自然発火による火災

緊急事態の対策内容

- ・ 三郷構内によるヒヤリハットの抽出
- ・ 作業終了時の木くずの確認
- ・ 消火器の設置
- ・ 緊急時を想定した避難訓練の実施
- ・ 本社、三郷間の緊急連絡網の整備

緊急連絡網



環境上の緊急事態の想定結果及びその対策 2023年11月24作成

2023年11月22日(水)

参加者: ヤード・ドライバー等13名

●訓練(緊急事態の想定) 木くずの自然発火による火災

緊急事態木くずの自然発火を想定し、避難訓練を実施致しました。

当社作成 緊急事態対応手順

- 1) 構内の従業員に通報 初期消火に努める
- 2) 消防所・本社へ連絡
- 3) 構内より避難
- 4) 責任者は、従業員の点呼・安全を確認



避難訓練後、問題点・注意点など抽出を行いました。

消火器の放射時間が短く感じられた
火が消えたように思ったが消えておらず2本目で消えた意外と消えない事が解った
初期消火出来ない場合速やかに避難が必要
消化薬剤は広い範囲に広がる為風向きに注意が必要
薬剤に包まれると視界がまったく利かない事が解った など

対策ミーティング

ゴミ(電池・バッテリー・スプレー缶・タイヤ等)引火しやすい物の管理を徹底し火災にならない様管理することが重要となる

訓練実施の結果 無事終了致しました。

緊急事態に対し確実に対応できる様 改善をし、被害拡大防止に努めています。
手順は有効と判断する

6. 地域貢献活動

2024年12月4日実施

●地域エコ活動として地域のごみ拾いをしました。



実施結果： ポイ捨てごみ(空き缶・弁当ゴミ・ビニール)が多かった。毎年数回実施しているが減る兆しは無い。
今後も地域清掃をし、キレイを持続していきたいです。

7. 関連法規

弊社の事業に係わる関連法規は下記のようなものがあり、その徹底遵守を図ります。
なお、昭和45年の創業以来、環境関連法規に関する行政指導、改善命令等は受けておりません。

7-1. 関連法規一覧

関連法規名	
産廃関連法規	廃棄物の処理及び清掃に関する法律
運行管理 関連法規	道路運送車両法
	貨物自動車運送事業法
	道路交通法
環境保全 関連法規	騒音規制法
	埼玉県生活環境保全条例、フロン排出抑制法
開発関連 法規	消防法、計量法

7-2. 関連法規の遵守に向けた体制

(1) 関連法規の事務所への備え付け

- ・上記の関連法規の全文もしくは抜粋を書籍もしくはファイルにして、三郷エコロジーに備え付ける。
- ・情報更新は、関連団体から情報提供などをもとに、常時行うこととする。また、毎年12月に情報更新の状況を社内監査し、必要がある場合は適宜インターネット情報等を元に更新することとする。

(2) 実績の報告

- ・産業廃棄物処理業、一般貨物運送業については、年に一度(6月)関係行政当局に、その事業実績の報告を行う。

(3) 環境指標の測定

- ・弊社施設では、破碎機を埼玉県へ特定施設として届け出ており、定期的に敷地境界線上で、騒音の検査を行い、社内会議時に報告を行い、検査の結果50デシベル前後の数値だった(担当:環境管理責任者)。これ以外の項目については、必要に応じて適宜行うこととする。

【なお、環境関連法規に関する行政指導、改善命令は過去3年間受けておりません】

8. 全体の取り組み状況評価と改善項目

●代表取締役 江井 弘

・総評

大きな課題であるCO2排出量については前2期連続減少していたが今期は基準年2022年に比べて9%増加した。重機使用の解体作業が増えたためと思われるが新たに9月より新しいモデルの機種を導入、入れ替えをしたので機能性、エコ効率もよくなり、無駄なエネルギー消費がなくなることになると思われる。電気使用量が前年より6%増加したが売り上げが前年比12%の増加となったことを考えると事業拡大に伴う必要な使用量とみなす。軽油使用量の増加も同様に事業拡大に伴うものであると考える。ガソリン使用量については現調に行くときには最短距離を走り、無駄な走りをなくす努力を期待する。廃棄物のリサイクル率が向上したことについては人件費も増加したがその分利益率も向上したと思われる。中間処理のリサイクル率は例年100%を達成しているが処理業を営む者の常識と考え今後も守っていくべきである。今後も作業場の夜間照明のLED完備や、解体作業で使用する機具を省電力のものに変えるなどの工夫をし、さらなる努力を続けていく必要がある。電気使用量の目標値の見直しが必要と思われる。

軽油の使用量は前年より微増したが燃費効率は低下している。世界情勢の変化の中でガソリン、軽油が高騰し、経営を圧迫している。会社存続、地球環境の保全のためにも燃費を目標の数値に向上させることは重要である。

産業廃棄物のリサイクル率については廃プラ、金属、木くず、紙等は100%を達成しているがガレキ類等の処理方法を再考することも必要と思われる。今後も努力を続けてもらいたい。

指示事項

収集運搬におけるリサイクル率の向上と、燃料費高騰の状況を鑑み運送効率の向上を重点目標として事業活動を営むことを望む。

環境経営方針、環境経営目標、環境経営計画更の必要性はない。

コラム ～シンプルエコファクトリー『三郷エコロジー』

●三郷と我が社の新しい中間処理施設「三郷エコロジー」

三郷市は、埼玉県南部に位置し、江戸川と中川、二つに川に挟まれた街である。江戸川の東隣りは千葉県であり、また南は東京の葛飾区に接する。三郷を含め、埼玉県最東端は元々葛飾と呼ばれる地域であり、国も武蔵ではなく下総であった。

三郷はまさに水郷の街であった。古くは、荒川、隅田川、利根川、渡良瀬川などが、この地を通して今の東京湾へ注いでいた。度重なる大規模な河川改修を経て、現在の河路の原型が出来たのは、江戸も中期になってからのことであり、それ以降、新田の開発が盛んに行われたという。屋敷林に囲まれた農家、畦にハノキが続く水田の間を、江戸への物資や野菜を運ぶ舟が進むというのが、この街の風景だったという。現在、街は大きく姿を変えた。かつてからの農村風景に加え、東京のベッドタウンとしての顔、産業都市としての顔、そして高速道路がクロスする交通の要所としての顔などを持つ街へと三郷は変化している。

産業廃棄物の中間処理施設である「三郷エコロジー」の設置にあたり、わが社では次の5つのことに留意した。

まず第一に、この三郷という街の立地条件と歴史に配慮した施設づくりを行うこと。この場所が育んできた特性を十分に発揮してこそ、地域と共に成長することのできる施設となると考えた。

第二に、自然の持つ力を生かすこと。風が吹けば涼しく、日が昇れば暖かいように、自然の持つごくごく当たり前の力を活用することとした。これにより、エネルギー面での無駄を省くとともに、自然と結びついた心地よさを施設内に生み出したいと考えた。

第三は、資源のリサイクルである。「三郷エコロジー」は、プラスチックと木を中心とした多様な廃棄物を再び資源化するための施設であり、その空間形成にあたっては可能な限り再生素材を採用するのみならず、ここで使われる建築素材が100%リサイクル可能であることが必要だと考えた。

第四は、新しいことへのチャレンジである。環境面において、一つでも二つでも新しい提案を社会へ投げかけたいと考えた。

そして第五に、心地よさ。手に触れるもの、目に映るものなどの心地よさと、環境面での配慮とは両立しうるものと考えた。

表現を変えるならば、地域共生、自然共生、資源循環、先進性、そして五感、この5つに留意したのである。

●自然の力を活かすのがまず第一

エネルギーについてはまず、無駄なく心地よい環境をどうしたら創れるか、現場を見ながら考えた。

「三郷エコロジー」は、巨大な三郷インターチェンジに面している。昼夜を問わず、車が走行する音が聞こえてくる環境ではあるが、その反面、空が大きく開けているという特徴がある。まずは、日照を良くし、太陽の光と熱で、作業や事務がしやすい就業環境を生み出そうと考えた。このため、三郷インターチェンジに向いた南側においてはガラス面を大きく取り、陽が直接施設内に入り込むようにした。また夏場の暑さに対しては、簾の設置で対応を図っている。簾は水郷・三郷の伝統的な工芸産物であるが、この取付けおよび上げ下げを容易に出来るようにすることで、作業員が日射を調整できるよう設計した。

続いては風だ。地域気象観測所によると、三郷は平均風速が1.5m/秒とかなり緩やかな地域である。とはいえ、たとえ微風であったとしても、夏場には心地よい涼気をもたらしてくれるものだ。三郷では夏、東北東から東よりの風が吹く。窓の向き、位置については、風向をもとに配置計画を行った。

太陽光発電、風力発電も採用しているが、これはあくまでも補助的なものである。まずは自然の持つ力を活かすことで、電力消費自体を低減することを重視したのである。

施設内の照明計画にも配慮し、省電力型の照明を使うとともに、不要な点灯を防ぎ、きめ細かく消灯可能にするため、スイッチ系統を複数化するなど、小さなところからのエネルギー削減にも取り組んでいる。また、消費電力が小さく耐久力が高いLEDについては、部分的な採用に留まっているが、今後低コスト化が進む中で、より積極的に導入を図りたいと考えている。

水については、雨水を積極的に活用することとした。敷地面積の10%以上を占める植栽への散水については、雨水升、ビオトープ池に貯留した雨水を使用することにし、水道水は極力使わないこととした。雨水升の水は、洗車にも活用する予定である。

●「処分」から「再生」へ 物の循環を生み出すのが使命

たとえ小さな存在であっても「三郷エコロジー」が首都圏における資源循環の確かなハブとなることを我が社は願っている。世界を旅した船がドックでの整備を経て、再びフレッシュな状態で次の航海へと出るように、一旦廃棄物として排出された物質も「三郷エコロジー」を通過することで新たな生命を吹き込まれ、素材、原料として再び市場へと戻っていく、そんな処理やルートづくりがまさにこの施設の使命なのである。また顧客から頂いているのは処分費ではなく再生費だと考えるよう認識を改めることとした。価値の源泉は再生にあり、そう考えるためだ。

施設の建設にあたっても、物の循環の視点は、重視すべきポイントだった。

まず、物の循環を推進する施設であるため、リサイクルが困難な素材は一切使わないことを大前提とし、建築家および施工業者との折衝に入った。結果、太陽光発電などで、一般的に再生が困難な素材を使用したものの、ほぼ100%に近い再生可能素材率となった。

また再生素材の積極的な利用も行ったが、特に力を入れたのは、弊社を経由して再生された素材の活用である。具体的には、ボード類、骨材、塩ビなどであり、目に見えるところでは、事務所のテーブルや棚、車両用安全用具などに利用した。

●小さくとも季節感のある空間

自らのあり方が地域や地球に何らかの影響を与えている、そのことにまず気づくことが環境を考える上での要諦である。そしてその気づきの原点の一つは、自然と直接触れあうことであろう。

「三郷エコロジー」が位置する三郷インターA地区では地区計画が定められており、工業ゾーンでは、道路から3m以上のセットバックが必要となる。特に私たちの事業用地は、北側と南側それぞれが接道しているため、道路から合計6mのセットバックを行うことになる。私たちは、この空間に「ビオトープ」「地域共生」「シンボル」3つの役割を与えることとした。

まずはこの土地の自然的・歴史的な植生をふまえケヤキとハンノキを植樹した。夏は木陰をつくり、冬は日の光を降り注がせる落葉樹は、自然の持つ力を最大限活かすという今回のプロジェクトを象徴するものとなるだろう。続いて低木には、最新のバイオ技術が生み出した新種のクチナシを採用した。この樹はNoxの吸収力に優れ、空気浄化作用を持つと同時に、初夏にはあの甘い香りを街にもたらししてくれるだろう。

木々の合間には小さいながらも雨水を利用した池をつくった。これは旧作業場のすぐ横にあった小さな水たまりから学んだものだ。水郷の街である三郷では、たとえ小さなスペースであっても鳥や水棲動物などがどこからか訪れ、なかにはそこに住みつくものすらあるのである。

●シンプルエコファクトリー

私たちの「三郷エコロジー」は、1000㎡程度のごくごく小さな施設でしかない。そしてまた資金的・事業構造面での制約から、大がかりな地域貢献が出来るわけでもない。しかし、私たちが築いたこの施設は、わずかなりとも社会に問いかけるものを有すると考えている。一言に要約するならばそれは『Simple Eco Factory』。つまり「三郷エコロジー」は無駄を排した環境共生施設、つまりシンプルなエコファクトリーであると同時に、自然の持つごく当たり前の力を活かした施設、シンプルエコを重視したファクトリーでもあるのだ。従来のエコプロジェクトでは、エネルギーの削減比率等数値的なものを追求するあまり、複雑な設備の導入ばかりに目が向きがちだった。

施設の中央にケヤキを植えたのは、まさにシンプルエコの象徴としてである。この樹は作業員に緑陰と心のゆとりをもたらすとともに、適正な廃棄物の処理と環境汚染ゼロのバロメータとなるであろう。私たちは、今はまだ幼いこの樹を大樹へと育て上げなくてはならない。